

OMEGAS

環境報告書2009

environmental report  
2009

 青梅ガス株式会社  
www.omegas.co.jp

Omegas Environmental Report 2009

# 低炭素社会の実現に向けて

はじめに	01
会社概要	02
対象期間	02
対象範囲	02
業種別販売量	03
環境理念	04
環境方針	04
環境への取組体制	05
2009年目標（中期計画）	05
環境活動報告	06
地域環境活動への参画	11
廃棄物処理について	12
環境会計	13

## — はじめに —

2009年は、政権交代により、温室効果ガスの削減目標が大きく見直された年でした。しかし、年末に開かれた第15回気候変動枠組条約締約国会議（COP15）では、各国の思惑が交錯して、京都議定書以後の中期目標の決定には至りませんでした。また、国内においても新しい削減目標を実現するための試算が繰り返されていますが、必ずしも実行可能なストーリーが描けないようです。

そんな中であって、東京都ではこの4月から全国に先駆けて、「温室効果ガス排出総量削減義務と排出量取引制度」が導入されました。削減義務が課せられるのは、当面は大規模な事業所ですが、中小規模の事業所が削減した分にもクレジットが設定され、排出量取引制度に参加できるようになります。また、中小企業に対しては、都にクレジットを無償譲渡することを条件に、設備の導入を補助する制度も創設されました。一方、家庭における対策においても、省エネラベリング制度や高効率給湯器認定制度などの取り組みが展開されていますが、さらに「家庭の省エネ診断員制度」が創設され、診断員が各家庭を訪問して効果的な省エネ手法をアドバイスする活動が始まっています。当社も、診断員の統括団体として都から認定を受け、既に活動しております。

東京都の制度は具体的かつ現実的なものであり、これから示されるであろう国の規制をも十分にクリアできるものと期待しています。そこで当社では、この制度に沿って、業務用、産業用のお客様、家庭用のお客様のそれぞれが、効率的に二酸化炭素の排出量を削減できるよう、お手伝いさせていただき所存であります。

代表取締役社長 中村 洋介



会社概要

所在地 [本社] 東京都青梅市新町8丁目8番地13号  
 [末広事業所] 東京都青梅市末広町2丁目10番地

設立 1960年(昭和35年)

資本金 45,000,000円

事業内容 1. 都市ガス・簡易ガス及びLPGの供給、販売  
 2. CNGスタンド及びLPGスタンドの運営  
 3. ガス機器の販売及び設置  
 4. ガス配管工事の設計・施工及び施工管理

供給区域 青梅市内及び近隣市町村

従業員数 64名

対象域間

2009年1月～2009年12月

対象範囲

本社・末広事業所・付臭施設及び供給設備



▲ 本社(青梅市新町)



▲ 末広事業所(青梅市末広町)

業種別販売量

▼ 都市ガス供給区域



▼ 都市ガス業種別販売量(2009年)





## 環境理念

青梅ガス株式会社は、資源とエネルギーの有効的活用を図り、公益事業者として環境関連法令及び「東京都・青梅市環境基本条例」を遵守し、自然環境に恵まれた街との調和を図り、豊かで安全な地域社会の実現に貢献します。

併せて、我々は企業活動を通じて、地域と地球環境保全に深く関わっていることを認識し、環境に優しい天然ガスの安全で安定した供給により、地域社会の発展に貢献します。

## 環境方針

当社は、下記の事項を「環境方針」と定め、環境保全の推進に貢献します。

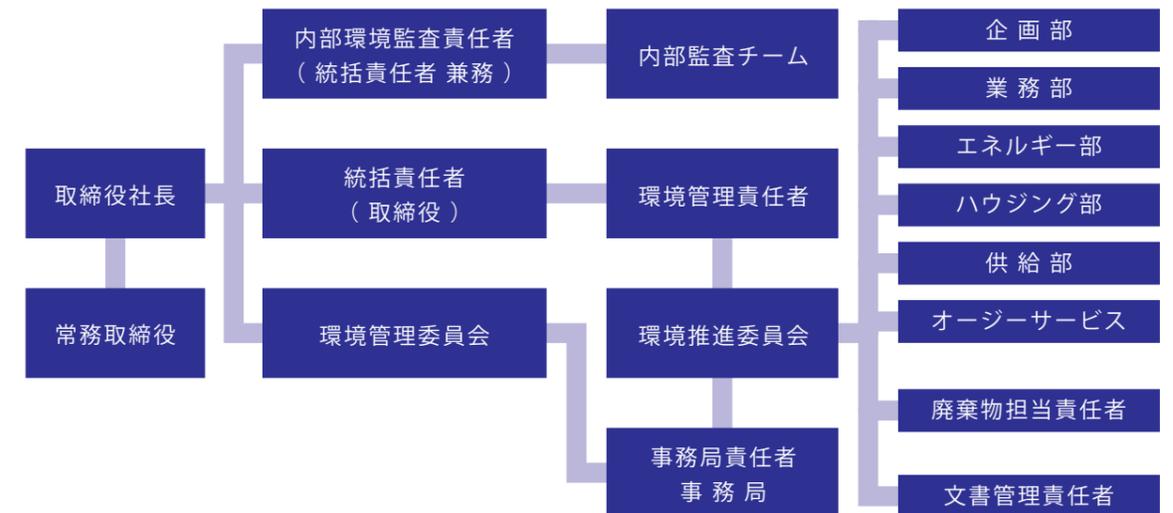
1. 環境負荷の低減・温室効果ガス排出削減への取り組み
  - (1) 環境にやさしい天然ガスの普及促進を図ります。
  - (2) 低環境負荷型ガス機器の普及推進に努めます。
  - (3) 社内活動全般について、省資源、省エネ活動を展開し環境保全を推進します。
  - (4) 企業活動に伴い発生する廃棄物の抑制及び再利用、再資源化に取り組めます。
2. 環境マネジメントシステムに基づく取り組み
  - (1) 環境マネジメントシステムを確立し、継続的な改善活動を行うことにより、環境汚染の予防を推進します。
  - (2) 方針に基づき環境目的及び環境目標を設定し、定期的見直しを行います。
3. 法令等の遵守
 

環境関連法令及び当社が同意する日本ガス協会等の関係組織によるその他の要求事項を遵守します。
4. 地域環境活動への参画
 

地域環境活動へ積極的に参加し、快適な社会の実現に貢献します。

～ この環境方針は、全従業員に周知すると共に一般に公開します。～

## 環境への取組体制



## 2009年目標（中期計画）

部・グループ	中期計画（2008年～2010年）
企画部	総務G 建物修繕計画立案
	高度化G 販売管理のシステム化 ガスクロマトグラフ分析・試験方法の改正
業務部	記録のデータ化・保存方法の検討
エネルギー部	大口需要家への天然ガス拡販 新規獲得件数2007年度比28%UP(新規獲得件数29件)
	CNG車両のPR活動による新規獲得台数2007年度比32%UP(新規獲得件数51台)
	オートガス車両のPR活動による新規獲得台数2007年度比8%UP(新規獲得件数47台)
ハウジング部	天然ガスの提案活動による拡販 新規獲得件数1,252件
	器具倉庫の管理
供給部	保安G ガスの安定供給と保安の維持・管理
	導管G 本支管材料・埋め戻し土木材料舗装工事の施工に伴う発生量の把握
オージーサービス	省エネ機器の拡販 2007年度売上比12%

環境活動報告

環境活動報告

[ 環境負荷の低減 ]

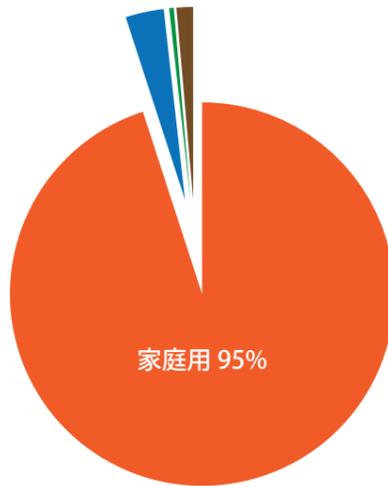
(1) 環境にやさしい天然ガスの普及促進を図ります。

燃焼時に二酸化炭素 (CO<sub>2</sub>) の発生量が石油や石炭に比べて少なく、硫黄酸化物 (SO<sub>x</sub>) を含まない天然ガスの普及促進を図ることにより、地球環境保全に貢献しています。

また、弊社が供給している天然ガスは、新潟県長岡市からパイプラインで結ばれているため安定した供給が可能となっております。

【メーター取付件数】

家庭用	19,537件
商業用	663件
工業用	79件
その他	285件
合計	20,564件



(2009年12月)



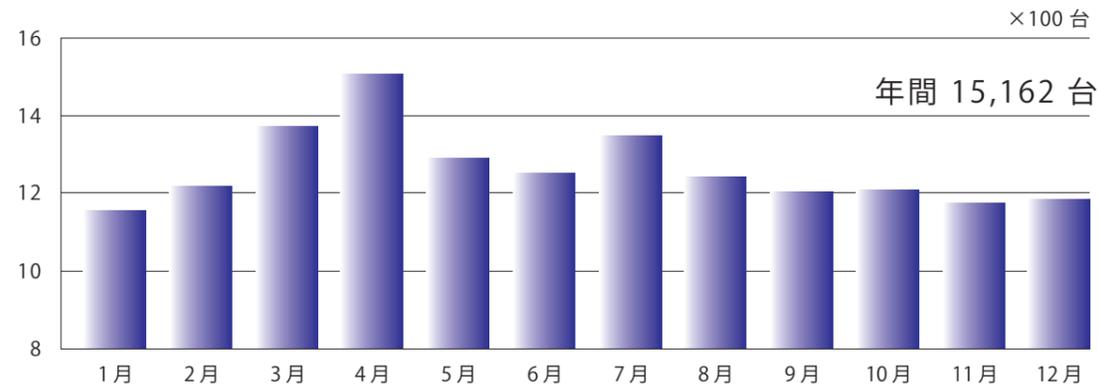


環境活動報告

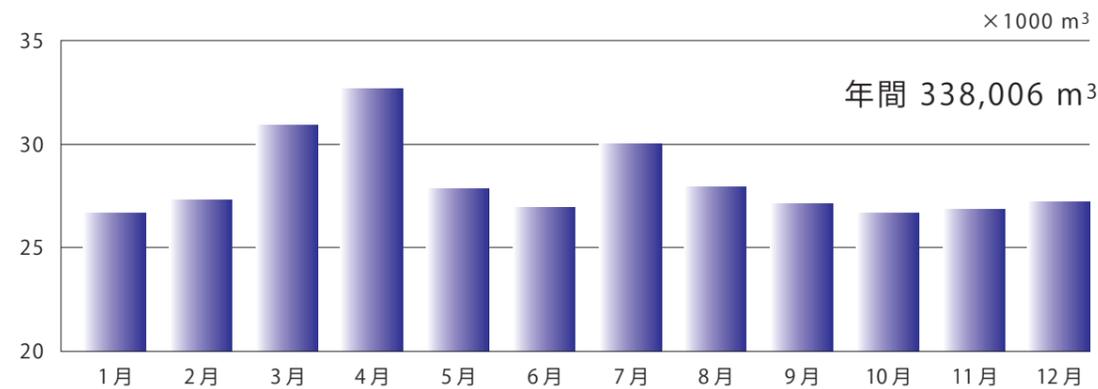
天然ガスは、自動車の燃料としても使われています。天然ガス自動車（NGV）は、ガソリン車の二酸化炭素排出量に比べ約20～30%の低減が可能とされており、昨今、環境への取組みにご注力される多くの企業・団体様に興味をお寄せ頂き、業務・営業車両としてその普及台数も年々増加しております。

青梅ガスでは、天然ガス自動車（NGV）の燃料となる圧縮天然ガス（CNG）を充填する「天然ガス・エコステーション」を有しています。青梅市内に都市ガスとして供給されている天然ガスをコンプレッサーで圧縮し、天然ガス自動車に搭載されている燃料タンクへわずか数分で充填します。多摩西部地域において希少な天然ガス自動車燃料充填施設です。

【2009年CNG充填台数】



【2009年CNG充填量】



環境活動報告

【天然ガス自動車普及台数（全国）】

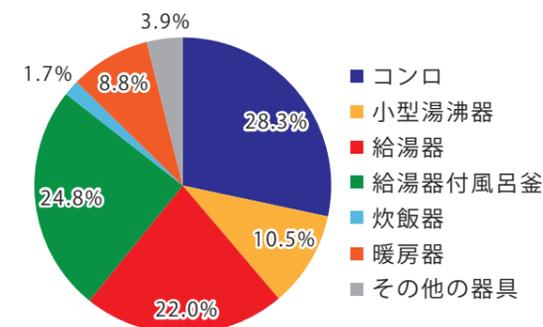
(社)日本ガス協会 天然ガス自動車プロジェクト部 (平成22年3月31日現在)



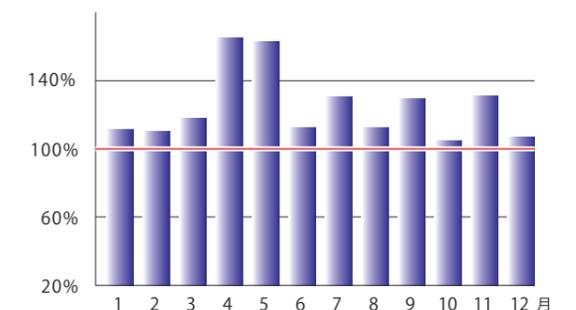
(2) 省エネルギー型ガス機器の普及推進に努めます。

ガス機器の販売については、省エネ機器の自主基準を設定し、対応機種の販売促進に努めています。省エネ機器の拡販によりCO2の削減はもちろん、お客様の光熱費の節約にも繋がりCS向上の面でも意味のある活動です。省エネ機器の販売促進を通じ、お客様により安全に、安心してガスをご使用いただけるよう努めています。

【2009年ガス機器販売比率】



【2009年販売目標達成率】



環境活動報告

[ 環境負荷の低減 ]

(3) 社内活動全般について、省資源、省エネ活動を展開し環境保全を推進します。



【打ち水イベント開催】

青梅市では、環境に少しでも興味を持ってもらうための行動として、8月16日から23日に「打ち水ウィーク」が行われ、当社もそれに賛同し、玄関前での打ち水を実施しました。  
打ち水をはじめ、敷地内の緑樹への散水には、雨水貯水槽に溜まった雨水を利用しています。



【グリーンカーテン実施】

夏場の強い日差しを和らげるための対策としてヘチマを使った「グリーンカーテン」を実施しました。  
今回は、テスト実施なので規模は小さいですが、「グリーンカーテン」を実施した窓とそうでない窓の温度では4.8度の差があり、見た目の涼しさも加わり、その効果を実感しました。

環境活動報告

[ 環境負荷の低減 ]

(4) 企業活動に伴い発生する廃棄物の抑制及び再利用、再資源化に取り組めます。

2008年よりガス管入れ替え作業で発生する産業廃棄物発生量の把握を開始しました。現在は、現状調査の段階ですが、今後このデータを元に発生量の削減に取り組みたいと考えています。

【ガス工事産業廃棄物発生量】

	廃棄物発生量 (m <sup>3</sup> )	新設管 1m 当り (m <sup>3</sup> )	
アスファルト	425.6	0.17	
コンクリート	71.2	0.03	
残土	1,425.6	0.58	
▼ 新設管		▼ 撤去管	
PE150A	1,307.5 m	PE50A	37.0 m
PE100A	678.5 m	PE30A	15.0 m
PE75A	250.7 m	KPW200A	3.4 m
PE50A	236.5 m	KPW150A	158.5 m
PE30A	30.0 m	KPW100A	61.5 m
KPW150A	9.5 m	KPW80A	2.0 m
		KPM80A	2.0 m
合計	2,512.7 m	KPM25A	14.0 m
		KFW150A	568.5 m
		KFW100A	477.0 m
		VP50A	219.5 m
		TM100A	40.0 m
		合計	1,598.4 m
		発生量処分費	6,635,333 円
		アスファルト処分費	440,600 円
		発生材処分費	2,031,059 円
		処分費計	9,111,663 円
		処分費 / 本管敷設	3,626 円 / m



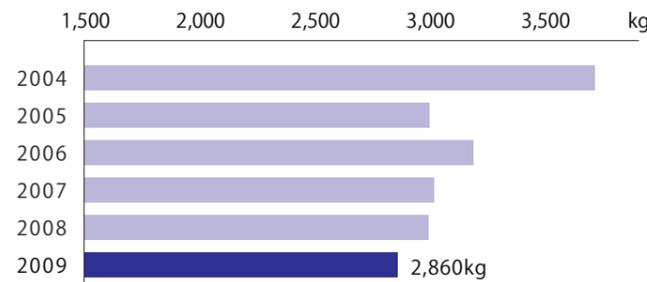


環境活動報告

[ 環境負荷の低減 ]

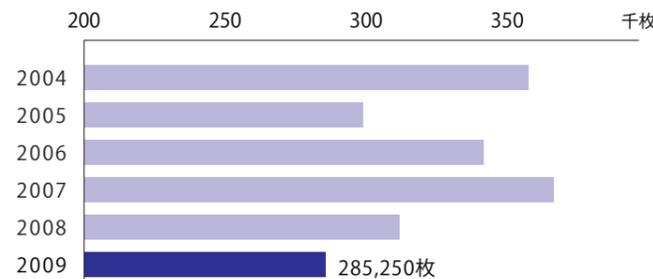
【 廃棄物年間排出量の推移 】

毎年ごみの分別に取り組んできましたが、本年はお客様感謝祭等のイベント時にお客様にも分別にご協力いただき、焼却ごみを削減することができました。  
本年は2004年度比23.1%削減できました。



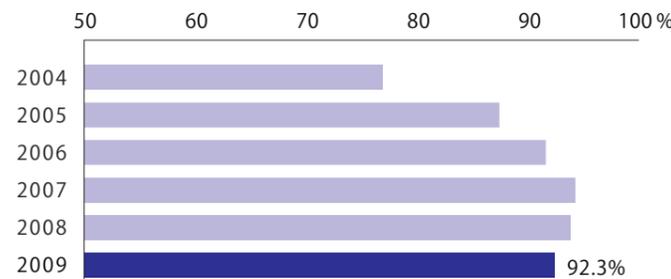
【 紙の使用量の推移 】

2009年度は目標を設定せず、紙使用ルールの維持管理に努めました。社内業務ではメール・プロジェクター・スキャナー等の使用が進み、2004年度比20.2%削減となりました。



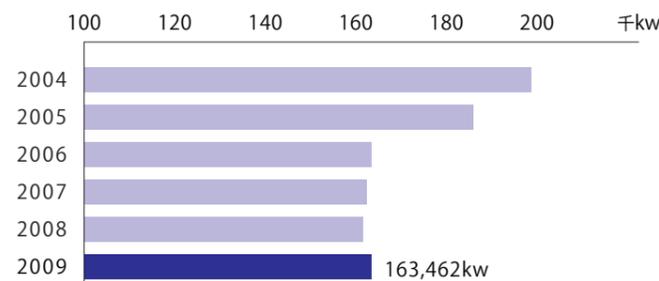
【 グリーン購入率の推移 】

購入時に対象商品の見直しを行い、グリーン購入率92.3%となりました。  
今後も随時見直しを行い、グリーン購入の推進に努めます。



【 電気使用量の推移 】

2009年度は目標を設定せず、電力使用ルールの維持管理に努めました。こまめな消灯・蛍光灯の間引き等で2005年度比12.0%削減することができました。  
今後も社員一同削減に取り組むたいと思います。



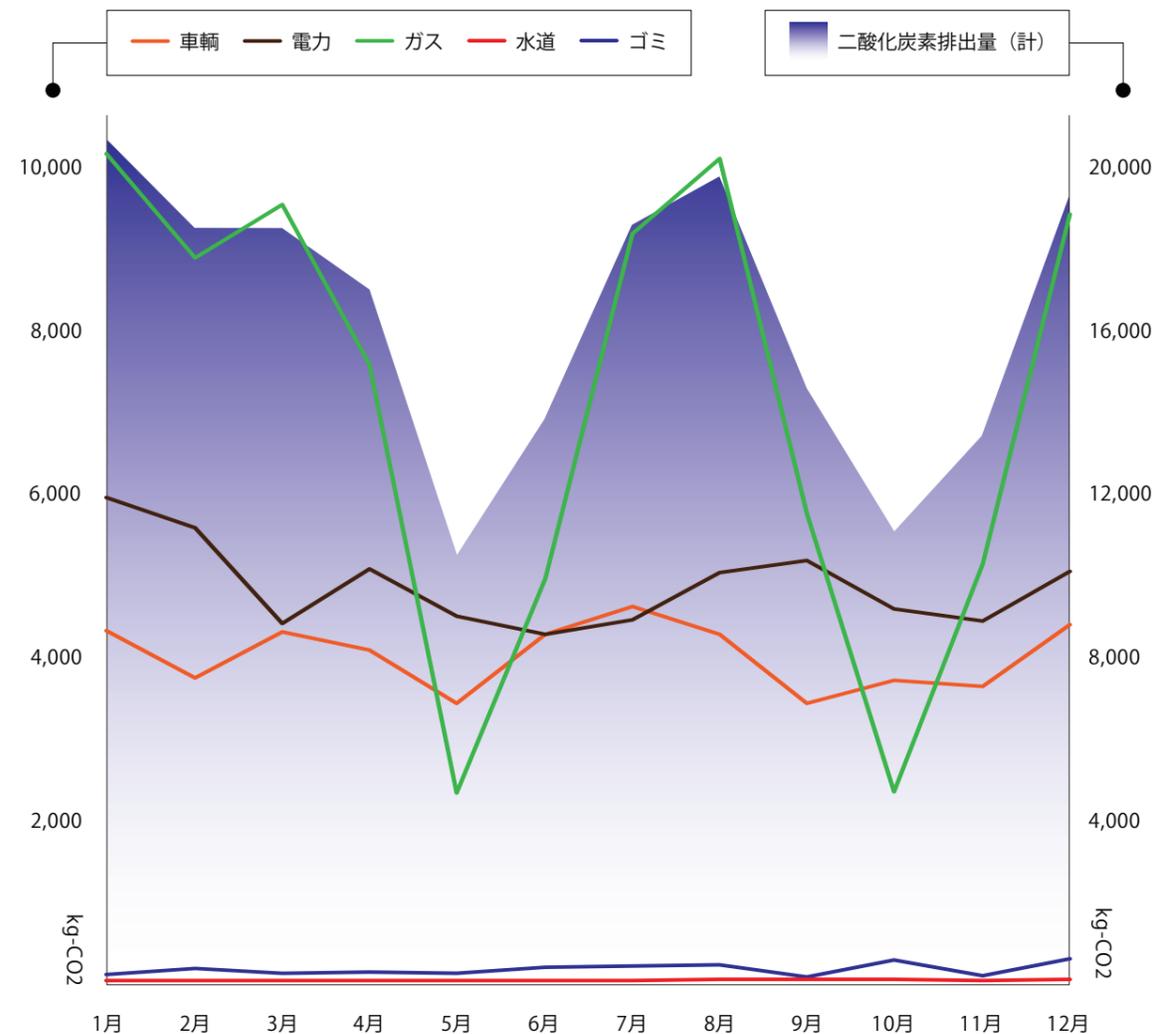
環境活動報告

[ 環境負荷の低減 ]

(5) 社内全体での二酸化炭素排出量削減に取り組みます。

社内業務活動において、廃棄物分別推進による排出量の低減・水道やガス使用の抑制・非稼働時の照明の消灯・社用車のアイドリングストップ推進等によりCO<sub>2</sub>の排出量を抑えるよう取り組んでいます。

【 2009年 二酸化炭素排出量 】





地域環境活動への参画

[ 事業所近隣の清掃活動 ]

毎月、本社および末広事業所近隣の路上清掃活動を実施しております。

この活動を通じて各社員の環境に対する意識向上を図ると共に、この活動が将来的に近隣の皆様との環境コミュニケーションとして成長することを期待し活動しております。



[ 市内中学校会社訪問 ]

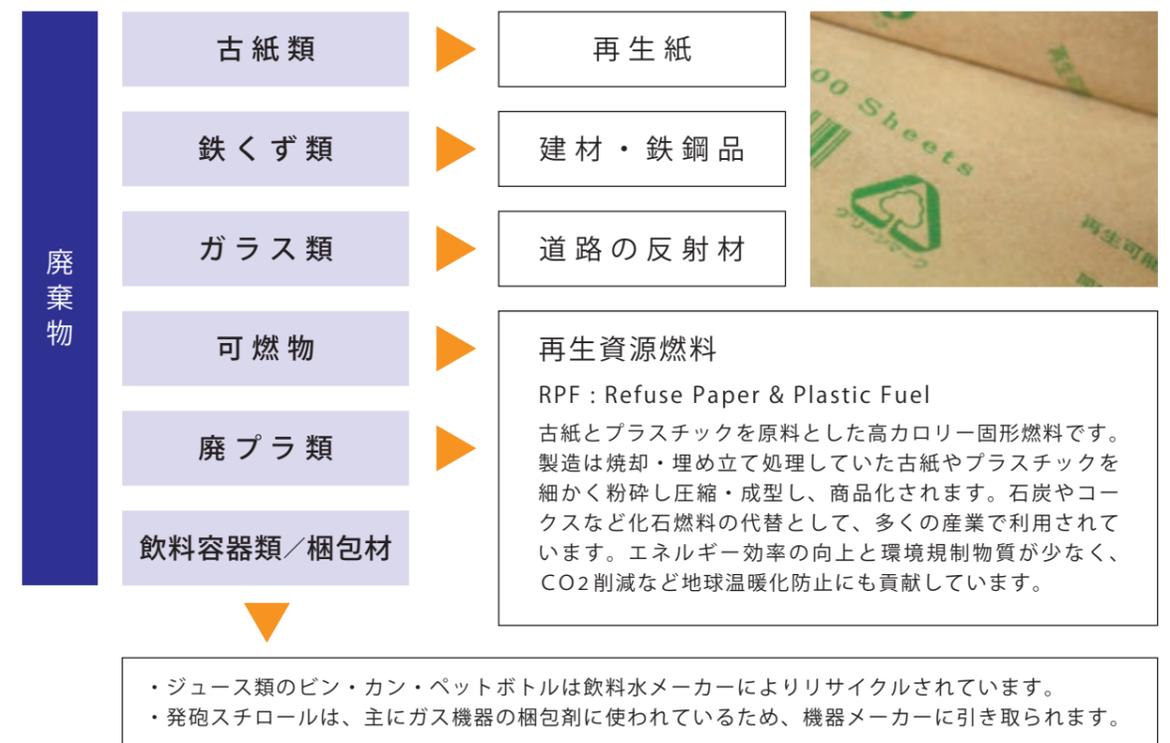
市内の中学校より「総合的な学習の時間（環境について）」の会社訪問にて来社していただいた生徒の皆さんに環境保全の大切さ、ガス事業者としての取り組み、天然ガスの環境保全に対する有効性について説明いたしました。

生徒の皆さんより多くの質問をいただき、当社にとっても有意義な時間となりました。今後もこのような活動を継続してまいります。



廃棄物処理について

当社から排出される廃棄物は、リサイクルされ生まれ変わっています。産業廃棄物として排出している可燃ごみは、処理を委託している中間処理業者によりRPF化し化石燃料の代替固形燃料として利用されています。



環境保全効果

環境保全効果

環境保全効果項目			2006年	2007年	2008年	2009年	環境保全効果
自 社 業 務	公害防止効果	本社・末広事業所 NOx 排出原単位 (都市ガス販売時に排出する NOx 量)	0.97 mg - NOx / m <sup>3</sup>	0.74 mg - NOx / m <sup>3</sup>	0.69 mg - NOx / m <sup>3</sup>	0.66 mg - NOx / m <sup>3</sup>	前年比 ▲ 0.03 mg - NOx / m <sup>3</sup>
	地球環境保全効果	本社・末広事業所 CO <sub>2</sub> 排出量 (電気・ガス・水道・車輛・廃棄物)	190,174 kg - CO <sub>2</sub>	188,563 kg - CO <sub>2</sub>	188,991 kg - CO <sub>2</sub>	196,341 kg - CO <sub>2</sub>	前年比 + 7,350 kg - CO <sub>2</sub>
		本社・末広事業所 CO <sub>2</sub> 排出原単位 (都市ガス販売時に排出する CO <sub>2</sub> 量)	10.5 g - CO <sub>2</sub> / m <sup>3</sup>	10.3 g - CO <sub>2</sub> / m <sup>3</sup>	8.9 g - CO <sub>2</sub> / m <sup>3</sup>	9.5 g - CO <sub>2</sub> / m <sup>3</sup>	前年比 + 0.6 g - CO <sub>2</sub> / m <sup>3</sup>
		業務活動における車輛使用時の CO <sub>2</sub> 排出量	52,940 kg - CO <sub>2</sub>	48,238 kg - CO <sub>2</sub>	47,920 kg - CO <sub>2</sub>	48,550 kg - CO <sub>2</sub>	前年比 + 630 kg - CO <sub>2</sub>
		業務活動における車輛使用時の NOx 排出量	17.60 kg - NOx	13.50 kg - NOx	13.19 kg - NOx	13.58 kg - NOx	前年比 + 0.39 kg - NOx
	資源循環効果	業務活動において排出される可燃ゴミ排出量 ※ RPF (P.12 参照) により再利用されています。	3,190 kg	3,020 kg	2,990 kg	2,860 kg	前年比 ▲ 130 kg
需 要 家 先	需要家先での環境 保全効果	省エネ機器の拡販による CO <sub>2</sub> 排出抑制量	2,108.86 kg - CO <sub>2</sub>	983.80 kg - CO <sub>2</sub>	3,509.00 kg - CO <sub>2</sub>	4,144.00 kg - CO <sub>2</sub>	省エネ機器への取替推進による CO <sub>2</sub> 削減量
		他燃料からの転換による CO <sub>2</sub> 排出抑制量 (一般家庭)	1,561.13 kg - CO <sub>2</sub>	1,088.19 kg - CO <sub>2</sub>	5,765.40 kg - CO <sub>2</sub>	8,317.00 kg - CO <sub>2</sub>	都市ガスへの転換による CO <sub>2</sub> 削減量
		他燃料からの転換による CO <sub>2</sub> 排出抑制量 (法人)	7,855.28 kg - CO <sub>2</sub>	11,250.30 kg - CO <sub>2</sub>	—	—	LPガスへの燃料転換による CO <sub>2</sub> 削減量 ※本年度は、天然ガス普及に努めた結果、実績なし。
		他燃料からの転換による CO <sub>2</sub> 排出抑制量 (法人)	250,983.08 kg - CO <sub>2</sub>	196,326.90 kg - CO <sub>2</sub>	1,721,898.00 kg - CO <sub>2</sub>	653,102.00 kg - CO <sub>2</sub>	都市ガスへの燃料転換による効果

環境保全効果項目			2006年	2007年	2008年	2009年	環境保全効果
自 社 業 務	廃棄物削減による 経費削減額	廃棄物排出量抑制による経費削減	¥ 255,200 -	¥ 241,600 -	¥ 239,200 -	¥ 228,800 -	前年比 ▲ 10,400 円
	掘削発生土の排出量 削減による経費削減額	浅層埋設・掘削幅縮小工法の実施 (1m当たりの掘削土処分費)	¥ 9,648,592 - ( ¥ 3,780 / m )	¥ 9,608,022 - ( ¥ 3,728 / m )	¥ 11,377,323 - ( ¥ 3,523 / m )	¥ 9,111,663 - ( ¥ 3,626 / m )	前年比 + 103 円 / m



【環境保全効果の算定について】

- ・一般家庭における効果算出は、4人家族で風呂に200L湯張り、シャワー、洗面、炊事にお湯を使用した場合を想定しています。(株式会社ノーリツの給湯機器カタログにおける試算条件より)
- ・CO<sub>2</sub>排出係数は、「地球温暖化対策の推進に関する法律施行令」による係数を使用しています。
- ・機器の熱効率は、株式会社ノーリツのカタログに従います。(灯油給湯器熱効率は、製造後10年の機器効率を使用しています。)
- ・「木に換算」とは、それだけの量のCO<sub>2</sub>を吸収するとされている「杉の木」の本数のことです。植物は、一般にCO<sub>2</sub>(二酸化炭素)を吸収しO<sub>2</sub>(酸素)を放出します。「杉の木」1本当たり1年間に平均約14kgのCO<sub>2</sub>を吸収するものとして試算しています。参考資料:「地球温暖化防止のための緑の吸収源対策」  
吸収量は年間14kgで換算。また、杉の木16本が作り出す酸素の量は、人が一年間に必要とする酸素の量と同じとされています。